

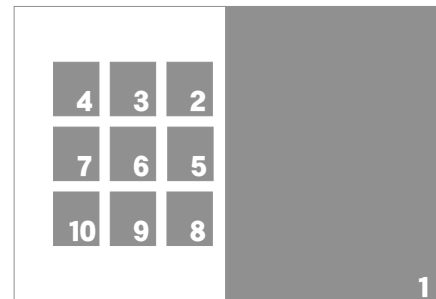
「日本のふるさと遠野まつり」(同実行委員会主催)は9月19・20の両日、中心市街地で行われ、61団体延べ1万人の市民らが南部ばやしやし踊り、神楽などの郷土芸能で、3万7,000人の観衆を魅了しました。

今年から新たに、神々が宿るとされる遠野郷のイメージを強く表現した5つの構成で祭りを演出。白い精霊と座敷わらし、白いししが、幻想的なオリジナル曲に合わせて舞い「神々のいざない」を表現。あたかも神々が舞い降りたかのような独創的な演技で観衆の目を奪うと、さらにメインの郷土芸能パレードで、祭りは最高潮に。「神々の叫び」と題した郷土芸能共演会では、約160個のライトがおよそ250mの駅前通りを照らし、光り輝く「黄金のベール」を見事に浮かび上がらせました。

2日目は、ステージ形式と通り抜け形式でまちなか全体を舞台化。北上市の「谷地鬼剣舞」と八戸市の「妙えんぶり組」の2団体を遠野まつりに初めて招待し、観衆は郷土芸能をゆっくりと鑑賞しました。エンディングでは、神々からの恵みとして1万個のもちがまかれたほか、11団体のしし踊りが群舞。来年の再会を誓いながら、2日間の祭りに幕を閉じました。



●Photo number



●Captions

1 激しい太鼓のリズムに合わせて勇壮に舞う「幕踊り系」の山谷獅子踊り 2 遠野では珍しい「太鼓踊り系」の行山流湧水鹿踊り 3 まつりを盛り上げる遠野町第15区自治会のみこし 4 精霊の役をあでやかな舞いで演じた菊池美咲さん(遠野北小6年) 5 神の先導役といわれる「猿田彦」の行列を先頭に外山神楽(小友町)がまちなかを清める 6 子どもたちの輝きと約160個のライトが「黄金のベール」を見事に演出 7 上組町南部ばやしの踊りが観衆をくぎ付けにした 8 遠野まつり初出演の国指定重要無形民俗文化財「八戸えんぶり」 9 五穀豊穡を祈願した演目「三番叟」を舞う平倉神楽 10 1万個のもちが盛大にまかれまちなかが大きく揺れた

今も息づく神々の物語が  
日本のふるさととの秋を彩る。

